



日本脳神経超音波学会
会員 各位

理事長メッセージ: 東日本大震災への対応について

謹啓

冬の名残のまだ去りやらぬ時候、平素より当学会の運営にご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

この度、3月11日に発生した平成23年東北地方太平洋沖地震とこれに伴う巨大津波により、多くの方の尊い命が失われたことに、深い哀悼の意を捧げます。この未曾有の大災害およびその後の一連の地震等で被災された全ての方々、また東京電力福島原子力発電所事故により避難生活を余儀なくされている大勢の方々に、心よりお見舞いを申し上げるとともに、被災地域の安全の確保と一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。更に、被災地で献身的に救援活動に従事されてきた会員各位及びその他の医療関係者の皆様に深い敬意を表します。

被災地岩手県の医療支援の陣頭指揮をとられている本学会前理事長の小川彰岩手医科大学学長は、大学のホームページ上で、被災地の現状(「ショックで言葉もない、想像の域をはるかに超える悲惨さ」と医療供給体制等の問題点を紹介され、今回の大災害が過去最大とも言えること、復興には阪神大震災以上の長期戦を覚悟しなければならないこと、長期にわたる計画的な医療支援が必要であることなどを指摘されています。会員各位におかれましては、ぜひご一読頂きたいと思います。

(http://www.iwate-med.ac.jp/iwate_med/president/message.html)

この度の大災害の影響は、電力供給が逼迫する関東地方をはじめとして、広く日本全域に及びつつあります。日本脳神経超音波学会としても、理事会を含む各種役員会、今年7月7日～9日に長崎市で開催予定の第30回総会(永田泉会長)での議論等を通して、長期的かつ有効な医療支援に取り組むべきと考えています。

会員各位のご理解、ご協力を心よりお願い申し上げます。『がんばろう日本!』

謹白

平成23年3月30日

日本脳神経超音波学会

理事長 峰松 一夫

